

RG-23

# 自動処理\_NHEK 培養細胞からの total RNA 分離 ( $\sim 1 \times 10^6$ 個)

## プロトコル

### ペレット化した細胞

細胞をペレット化し上清全部を吸引で取り除く  
(細胞数上限  $1 \times 10^6$ )



← PBS: 20  $\mu$ l (凍結細胞ペレットの場合)

チューブを軽く叩きペレット化した細胞をほぐす



← LRC (2-ME 添加済み)<sup>\*1</sup>: 520  $\mu$ l

上清を 2 ml マイクロチューブ (サンプルチューブ) に移す。<sup>\*2</sup>

### ディッシュ上溶解

ディッシュ中の培養液全部を吸引で取り除く  
(細胞数上限  $1 \times 10^6$ )



← LRC (2-ME 添加済み)<sup>\*1</sup>: 520  $\mu$ l

セルスクレーパーで細胞を集め、  
マイクロチューブ中に全量回収<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup> 2-メルカプトエタノール (2-ME) を、使用前毎に必ず LRC に加えてください。1 ml の LRC 当たり 10  $\mu$ l の 2-ME を加えます。

<sup>\*2</sup> 推奨のマイクロチューブ  
#BM4020 (ビーエム機器)  
#72.695.700 (SARUSTEDT)  
#72.695.500S (SARSTEDT)

ボルテックス: 1 分間 (最大回転数)

装置にセット

Protocol: RNA CULTURE CELL  
(溶出液量: 100  $\mu$ l<sup>\*3</sup>)

\*サンプルチューブのセット方法については、

Quick Start Guide または取扱説明書を参照してください。

1. ライセートを移液後、100  $\mu$ l のエタノール (>99%) と混合
2. ピペティングにより攪拌
3. ライセートを移液後、180  $\mu$ l のエタノール (>99%) と混合
4. ピペティングにより攪拌
5. ライセートをカートリッジにアプライ
6. 加圧
7. Wash Buffer(WRC) で 1 回洗浄
8. DNase 処理
9. Wash Buffer(WRC) で 2 回洗浄
10. 溶出液(CRC) を添加し、total RNA をコレクションチューブに回収

Total RNA

サンプルの種類・保存条件などによっては分離できない場合があります。  
データに関しては保証しておりません。  
分離した核酸には目的以外の核酸 (例: DNA 分離には RNA) が含まれています。

## 結果

### Total RNA の収量 (DNase 処理なし)

タンパク質の混入 : A260/280 /カオトロピック塩の混入 : A260/230

サンプル	細胞数	A260/280	A260/230	収量(μg)	S. D.
NHEK	1 x 10 <sup>6</sup>	2.32	2.15	29.6	0.96

N=4

## 共通プロトコルサンプル

HL60 細胞、HeLa 細胞、HEK293 細胞、NIH/3T3 細胞、COS-7 細胞